

2018.11.29.

日本学校教育学会・会員のみなさま

宮古島スタディツアーのご案内（最終案内）

日本学校教育学会 実践研究委員会

和井田清司（武蔵大学・責任者）

黒田 友紀（日本大学・事務局）

会員のみなさま。学会としてはじめて企画する国内スタディツアーのご案内（最終案内）です。今回は、沖縄県宮古島市を訪ね、現地の先生方と学び合いたいと思います。

宮古島は、「透きとおる海、満天の星がひろがる至高のリゾート」（HIS）とも形容される風光明媚な観光地です。全島が珊瑚礁でできているため、雨が地面に吸収され、川がほとんどありません。川からの汚泥等が流れ込まないため、海が汚染されることなく残されました。生活は地下水の活用で成り立っています。

ところが、化学肥料の投与、過剰な観光開発、国防政策の強化等の影響で、地下水汚染をふくめた環境問題が深刻化しています。その一方、地下水汚染の問題に取り組んだ高校生の活躍で、環境にやさしい有機肥料の開発がすすめられています。持続可能な環境や地場産業をもとめて市民や企業の取り組みも発展しています。

今回の企画では、長年現地との交流をすすめ、多くのネットワークをお持ちの善元幸夫氏（東京学芸大学講師・元琉球大学講師・元公立小学校教諭）にコーディネートをお願いしています。善元氏のご支援をいただきつつ、多面的な宮古島とのディープな出会いをめざしたいと思います。

なお、全国各地からの参加を想定して、現地集合・現地解散のかたちで実施したいと思います。定員に達し次第〆切とさせていただきます（〆切の際は、学会のホームページでお知らせします）。下記の企画内容をご検討いただき、早めの申込みにご協力ください。

どうぞ、よろしく願いいたします。

記

■日本学校教育学会スタディツアー（コンセプト）

宮古島～豊かな自然とゆったりとした時間のなかで学校教育の未来を考える

■日程（3泊4日） 2019年3月24（日）、25（月）、26（火）、27（水）

■フィールドワーク

○地下水の島・宮古島―「地下ダム」の秘密を探る

○伊良部島で環境問題を考える

○持続可能な地場産業の知恵

雪塩ミュージアム 「海そのままをそのままに」（社長のお話）

○紺碧の海と新鮮な食を堪能する

眺望の素晴らしい岬、美味しい漁師飯～漁港

○民謡酒場（島唄）とほのぼのカフェ（フォークソング）

■公開シンポジウム

「地域とともにひらく学校教育の未来～宮古島発・グローバルな教育実践」

開会行事（あいさつ）

[進行] 実践研究委員・現地教員

- ① 地下水を守れ！ 高校生たちの挑戦！（持続可能な島の未来のために）
前里和洋氏（県立八重山農林高校教諭，元県立宮古総合実業高校教諭，農学博士）
 - ② ウニの海を取り戻せ！（宮古島発・総合学習）
善元幸夫氏（東京学芸大学講師，元琉球大学講師，元公立小学校教諭）
 - ③ 対話型授業をこう創る！（「主体的・対話的で深い学び」の可能性と課題）
多田孝志氏（金沢学院大学教授，共創型対話学習研究所長，元日本学校教育学会会長）
- [指定討論] 学会員・現地教員

■旅程（現段階の予定）

3/24（日）・一日目

現地集合（18時・指定のホテル[サザン・コースト宮古島／0980-75-3335]で合流）

夜 宮古島の先生方との交流会（宮古教育会館）

3/25（月）・二日目

午前 午前 学校訪問予定（宮古総合実業高校）

午後 伊良部島フィールドワーク

夜 宮古島の人々との夕食交流会（郷土料理）

3/26（火）・三日目

午前 博物館→地下ダム→雪塩ミュージアム（製塩所） 昼食 畑キッチン

午後 シンポジウム「地域とともにひらく学校教育の未来」

夜 交流会 ホテル近くの店

3/27（水）・四日目 現地解散（フライトまで各自フリータイム）

■費用 約3万円（ただし，往復旅費・宿泊費・食事代は各自負担）

■募集人数 15人程度

■コーディネーター 善元幸夫氏（東京学芸大学講師，元公立小学校教諭）

■申込事項

- ①氏名（よみがな），②年齢・性別，③所属，④住所（〒番号含む）
- ⑤メールアドレス，⑥携帯電話番号，⑦FAX番号

■募集 申込期間 2018年9月1日～12月31日

（先着順で定員になった時点で申し込みを終了します）

申込・問合せ先（以下のメールにてお願いします）

黒田友紀 kuroda_y@penta.ge.cst.nihon-u.ac.jp

以上.